

研 究 テ ー マ	概 要
	<p>や全試展に出品した。この見本製品を元に、現在、一企業が、問屋、その他からの依頼をうけ、製作を行なっている。</p>
<p>21. 「木製品における形体と視覚触角の関連」について</p> <p style="text-align: right;">楠畑 裕也</p>	<p>1. 目的 木材の持つ多様な形体を追求し、それが視覚触覚に与える効果を確認めることによって製品設計の手がかりを得る。</p> <p>2. 概要</p> <p>1. 形について イ. 平面形体と立体形 ロ. 直面と曲面</p> <p>2. 形と感情について イ. 視覚効果と感情 ロ. 触角効果と感情</p> <p>3. 計画年次 昭和52年度～55年度</p>
<p>22. ビルトイン家具開発に関するデザイン研究</p> <p style="text-align: right;">田原 健次</p>	<p>ビルトイン家具分野への関心が高まり企業間においても試作研究が盛んであるが、製作条件が従来の造作家具等とは異なり機能性、加工精度、スタイル色彩等の諸面に亘り厳しいため、企業独自の開発ベースは限界が生じているのが現状である。一方需要面は高層化住宅等の急増と共に急伸し需給面にアンバランスが見られ、現実の市場品の大半は県外品で占められている。</p> <p>これらを反映して指導要請も現実的対応策が求められ側面援助の強化策が必要となった。以上の概況によりデザインポイントを要望の多い「棚類」に絞り、次の要領で図面化したものである。企業サイドでは目下これを基本に試作中で、来る6月の展示会等で発表予定である。</p> <p>〔主要仕様〕 1. 構造（パネルジョイント方式によるプレキシビリティなもの） 2. モジュール（高さ1800+300mm/m、巾 900～450mm/mを基本とする） 3. スタイル（各々用途別9タイプとする） 4. その他（上下左右間隔等の調整板、取付金具の調達、部材の集中管理法等を考慮）</p>